

公園の野鳥の生息数

東京都立戸山高校 SSⅡ生物 2年 石川佳歩 小寺結心

Abstract:公園に生息している野鳥の個体数と種類について6月と、8月に調査を行った。留鳥で1年中公園で見ることができる野鳥が多く生息していた。また、6月の方が8月よりも同じ種類の個体を多く確認できたことから、繁殖期には群れで行動していて、より活動が活発になることが分かった。

動機 最近、以前ほど野鳥を見かけないように感じる。実際、年々個体数が減少し続けている種が多くある。どのような環境で、どのような種類の野鳥が生息しているのか分かれば、その環境を維持し、個体数の減少を抑えることができるのではないかと思い、今回の実験を計画した。

方法

観察ポイント

1. 羽根木公園 梅林 6:00~
2. 駒沢公園 バードサンクチュア 7:15~
3. 駒沢公園 西口 7:30~

- ① 2分間観察ポイントから見える範囲にいる鳥の種類、個体数を数える。
※鳴き声で数えてもよい。
- ② ①を5回繰り返す。
※この時、**同じ個体**も数える。
- ③ 5回の平均を出す。

- 6月5日 (天気:曇り 気温:21.2度)
- 8月2日 (天気:晴れ 気温:27.4度)
- 10月30日 (天気:晴れ 気温:19.7度)
- 12月12日 (天気:曇り 気温:7.9度)

に実験を行った。

考察

・8月2日に見られた野鳥の個体数と野鳥の種類が圧倒的に少なかった。

→6月は**繁殖期**の後期だったため、**群れで行動**していて1つのポイントに集まっていたのではないか。

・総数 10月 > 6月 > 8月

→気温が高くなるほど行動する時間帯がより**早い時間帯**になったのではないか

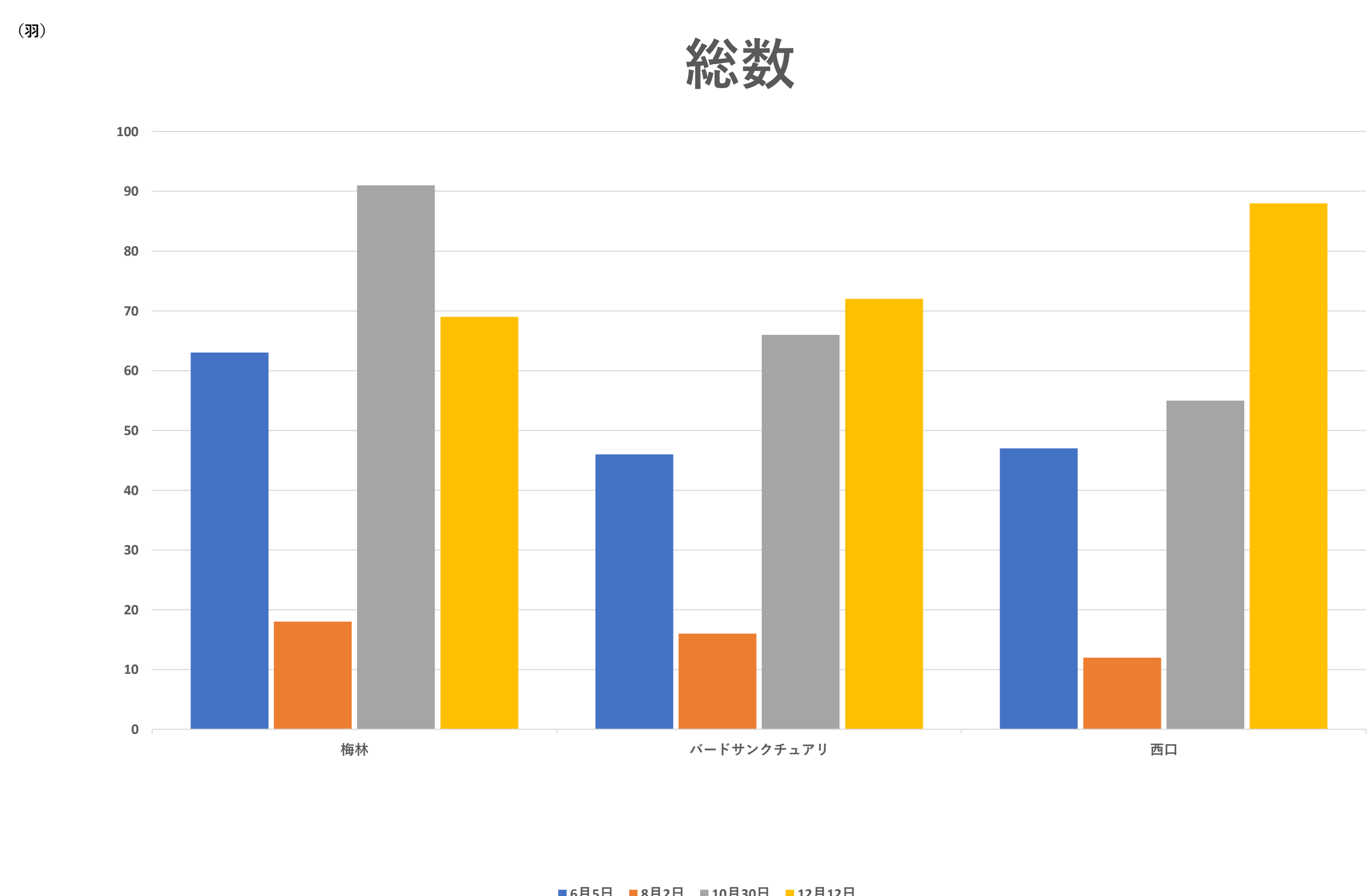
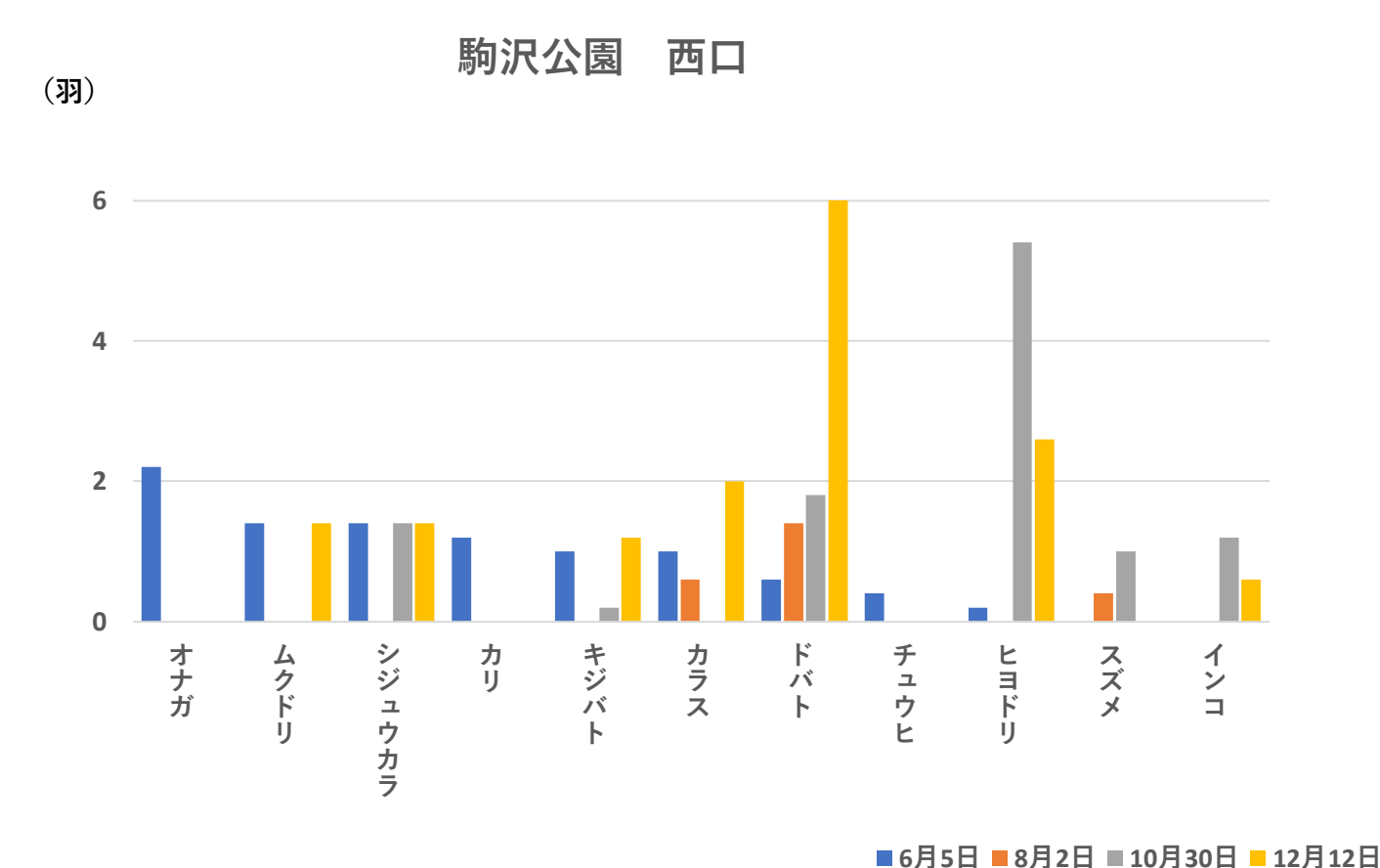
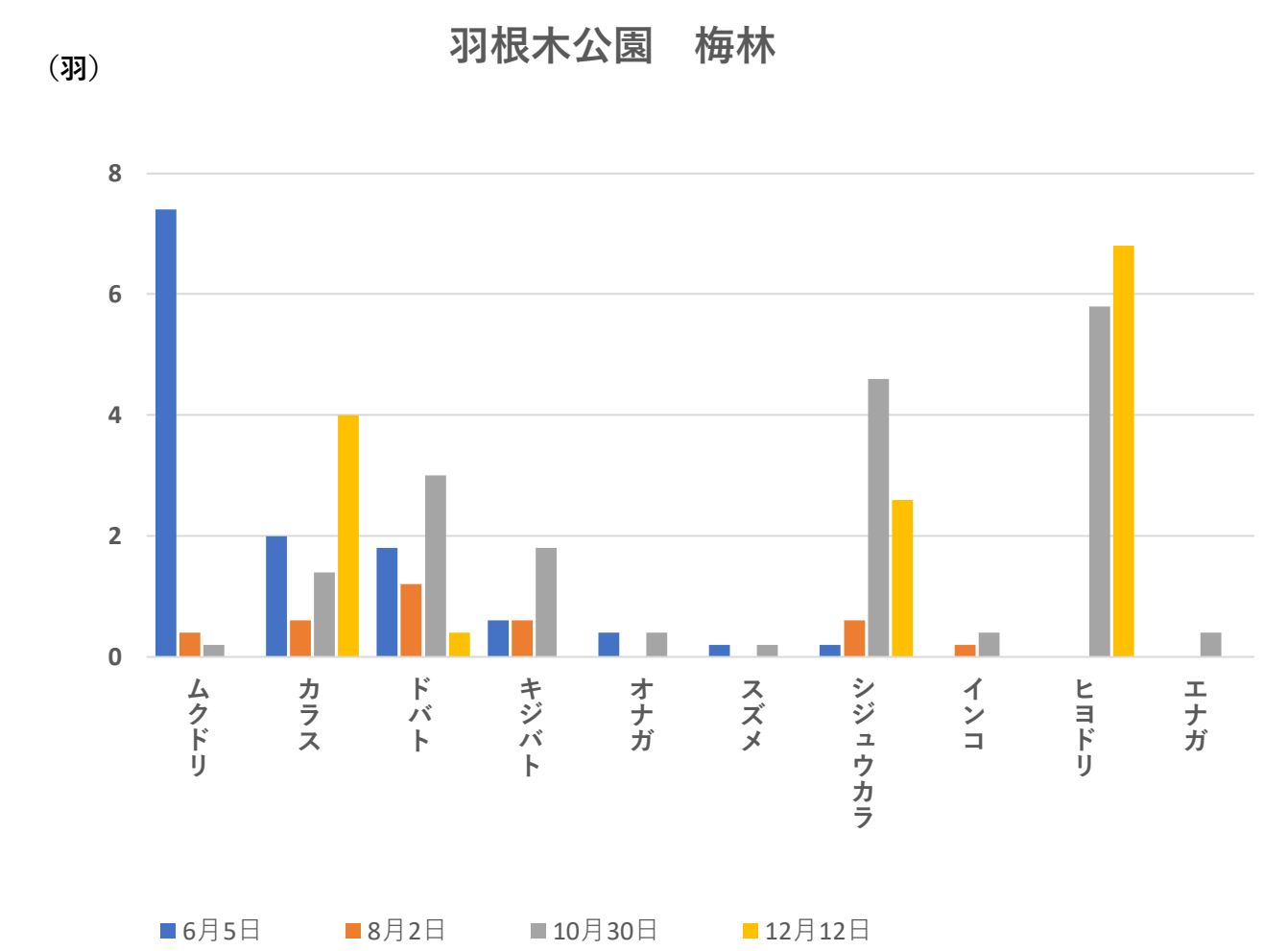
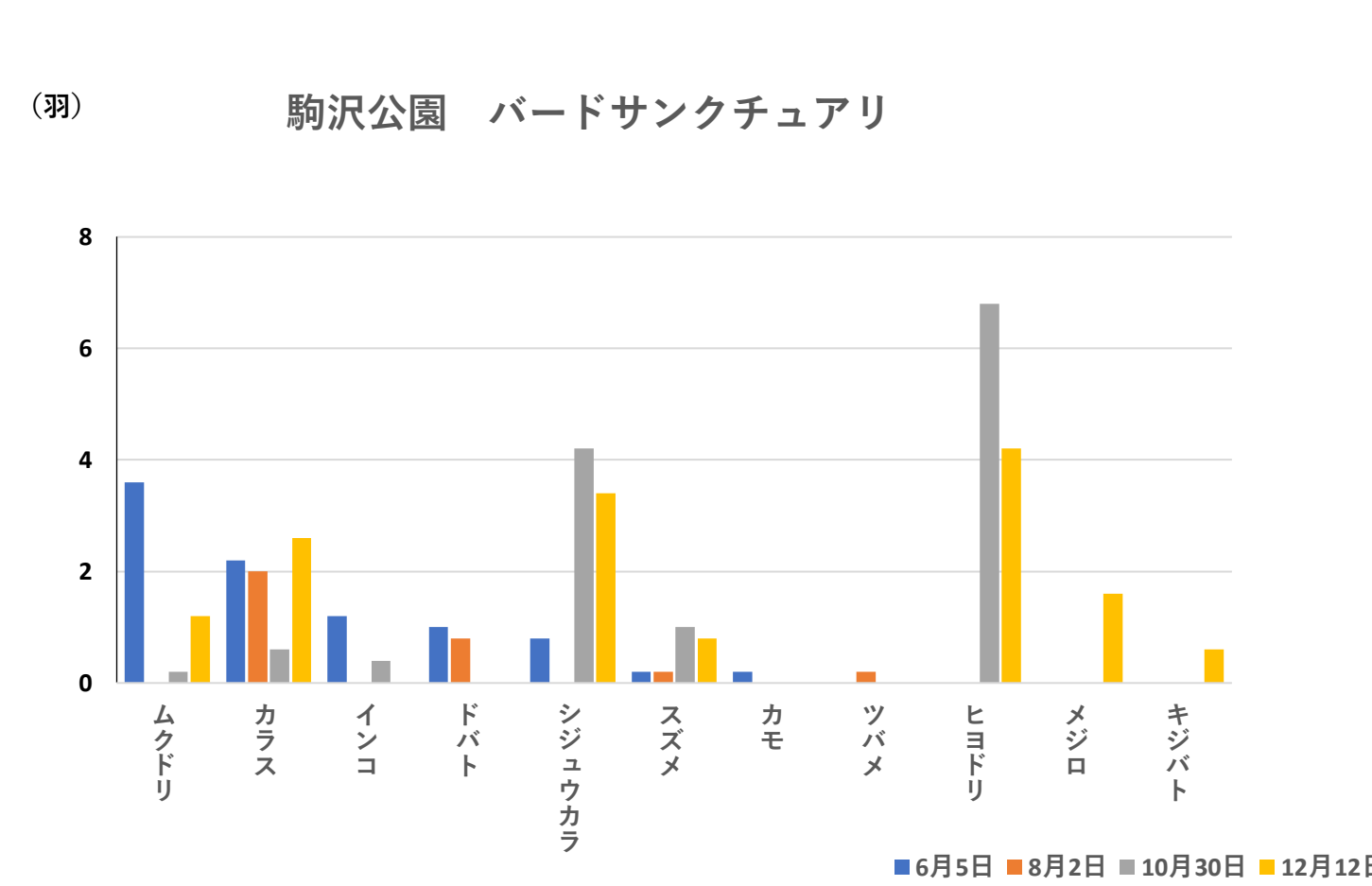
・10月30日はヒヨドリ

6月2日はムクドリが多く生息している。

→ヒヨドリ…9月下旬から10月上旬に群れで飛んできて、日本で**越冬**する。

ムクドリ…6月頃**繁殖**、秋から冬にかけてが最も多くなる。

結果



今後の課題

- ・観察ポイントの**植生**を観察し、生息している野鳥との関係を調べる。
- ・野鳥の活動時間を把握する。

参考文献『野鳥の観察と調査』唐沢 孝一著